

令和元年度 栄光幼稚園・自己評価学校関係者評価

1.教育方針

『あそび』を主体とした幼稚園生活からたくましく『生きる力』を育てる。
～幼児期にふさわしい生活の中で、あかるくのびやかに活動し、健康な体と豊かな心を育てる～

2.教育目標

- ・つよいこ すこやかな体と、どんな困難も乗り越える強い意志を持てる子
- ・あかるいこ 誰とでも仲良く笑顔でのびのびと行動できる子
- ・やさしいこ 心が広くおもいやりのある子
- ・かしこいこ 良く見て良く考え善悪の判断力をしっかり持てる子
- ・たくましいこ なにごとにも勇気を持って挑戦する子

3.各項目の自己評価及び達成状況

評価項目	自己評価	取組・達成状況
I.保育の計画性	B	指導計画を立てても、子どものあそびや興味に柔軟に対応していきたい部分もあり、難を感じている職員が多い。あそびが充実してきた証拠だと思うので今後職員間の話し合いを進め、計画と臨機応変な対応に務めていきたい。
II.保育の在り方・幼児への対応	A	子どもの声を聞き、寄り添いながらも全体を把握できるよう意識して心がけている職員が増えた。
III.保育者としての能力や良識・適正	A	探求心、実行力は高く評価できる。職員同士の共通理解を積極的にし、今後も保育の楽しさ、喜びを感じられるような体制を整えていきたい。
IV.保護者への対応	A	その保護者に合わせて、また、偏らない公平な対応が必要とされる。今後は認定こども園になるので、更に多種多様で臨機応変な対応が必要とされる。
V.地域の自然や地域との関わり	B	まだまだ足りていないが職員の意識は高まってきているように感じる。これから開拓していきたい。
VI.研究と研修	B	職務改善をし、もっと研修時間を設けられるようにしていきたい。専門性を高めるとともに幅広い分野の研修を受け、知識を広めていきたい。

4.今年度重点的に取り組んだ教育目標と取り組み

項目	重点的に取り組んだ内容
1.年間計画の見直し	昨年度取り組んだ年間指導計画見直しを継続し、より今の子どもたちに相応しい内容を検討した。
2.環境の工夫	建替えもあり、生活スペースが限られているため、各保育室内でいかに充実したあそびが展開できるか、また、近隣の公園など、園外で楽しめる場所を摸索し、生活の工夫に積極的に取り組んだ。
3.認定こども園に関する共通理解	2020年4月から認定こども園に移行することで、他の認定こども園を訪問したり、1日の生活やシステム等について学び合い共通理解に取り組んだ。

5.学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none">・今年度は建築中で園庭は無かったが、いつもは広い園庭が確保され、子どもたちの遊ぶ空間が確保されていてたいへん好ましい。・週1回、または臨機応変に園外に出かけることはたいへん素晴らしい。多くの未知のものに触れること、経験すること、違う環境を知ることは成長を促す。これからも続けていってほしい。・園児同士の関わりで、もっと異年齢の活動を増やすと良いのではないか。年齢の違う者同士が日常的に関わることで、他の人への関心を高め、お互いに補いあい、思いやり合うようになると思う。・常に職員間で園全体を共有するようにしていることはたいへん望ましい。一人ひとりの子どもに親身になって取り組む姿はとても好感が持てる。・手立ての必要な子どもについても担任一人に任せるのではなく、みんなが関わっている体制づくりが出来ている。子どものより良い成長には不可欠のことなので続けていってほしい。・今後は認定こども園になり年齢層も広がるので、職員間でしっかりと共通理解をしながら取り組んでいってほしい。

6.今後の課題

<p>新園舎となり、危険な場所等のヒヤリハットもしっかりと確認していきたい。 今までの栄光幼稚園としての教育理念を持ちながら、認定こども園として時代のニーズに応えながら対応していきたい。 職員も増えるので一人ひとりの動きも見ながらしっかりとした体制を整えていきたい。</p>

7.財務状況

<p>公認会計士監査により、適正に運営されていると認められる。</p>
